

無痛分娩説明会

きりんウィメンズクリニック武蔵野

無痛分娩とは

◇硬膜外麻酔...背中にチューブを入れて、麻酔薬を流し痛みを取り除く方法です

◇痛みが完全になくなる訳ではありません
(個人差あり)

当院では無痛分娩を行う際、麻酔科専門医を中心として**硬膜外麻酔**を行います。

硬膜外麻酔を用いた無痛分娩は世界的にはポピュラーな分娩方法です。

無痛分娩というと全く痛みがないことをイメージしがちですが、

実際は最低限の痛みにおさえるものです。

(麻酔の効き方には個人差があります。)

無痛分娩のメリット

- ◇痛みが少ないためお産の疲労が軽減される
- ◇産後の回復が早い
- ◇会陰の傷を縫合する時の痛みが少ない

無痛分娩のデメリット

- ◇麻酔の影響で陣痛が弱くなる
- ◇陣痛促進剤を併用することが増える
- ◇吸引・鉗子分娩となるケースが多くなる傾向

麻酔をする前に

①麻酔をする前には胃の中を空っぽにしておくことが安全上大切ですので、無痛分娩を行う当日は、原則絶飲食になります。

麻酔をする前に

②今まで経験した、また現在も治療中の疾患があればお伝えください。

また極まれですが遺伝的に麻酔に対し異常反応を示す家系がありますので、血の繋がりのあるご家族でその様な話があった場合は、必ずお伝えください。

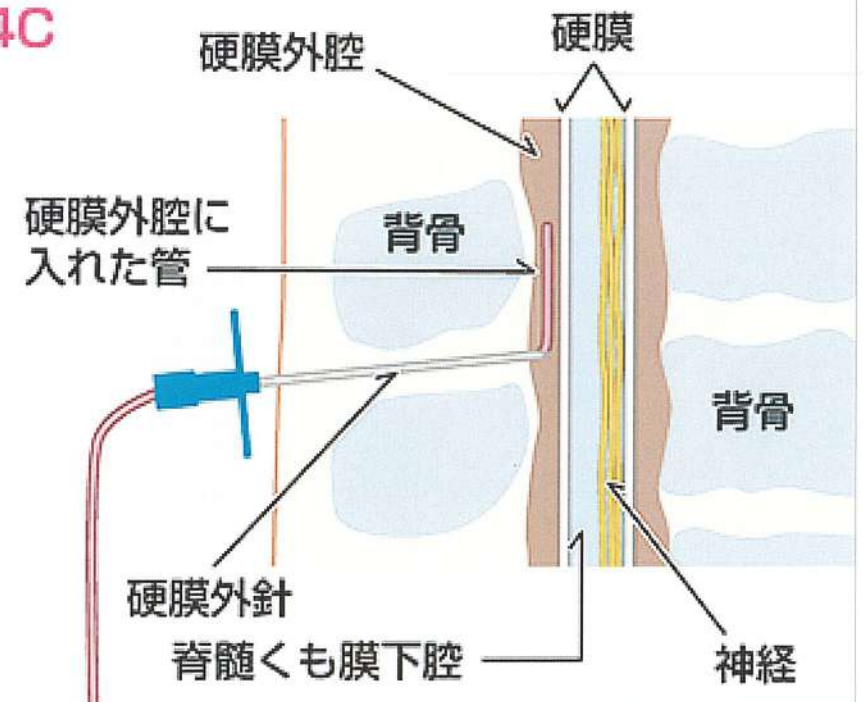
麻酔の種類について

①硬膜外麻酔

背骨の骨の隙間から針を
すすめ、細いチューブを
留置します。

このチューブから麻酔薬を
入れて分娩の痛みを軽減し
ます。

図4C

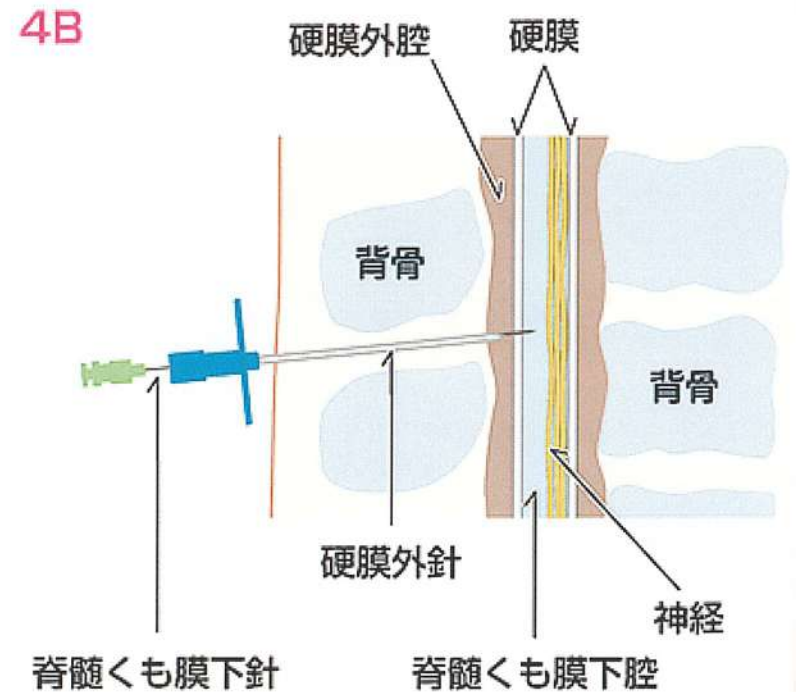


麻酔の種類について

②脊椎くも膜下麻酔

腰にある背骨の隙間から、針をすすめ、くも膜下腔に麻酔薬を入れます。硬膜外麻酔よりも強力な麻酔になります。一回のみの注入になる為、長時間の鎮痛には向いていません。

原則、無痛分娩では行いませんが、母体や児の状況に応じて緊急の帝王切開などになる場合には併用することがあります。



麻酔に伴う副作用・合併症

比較的多い副作用として、
低血圧症・尿が出しにくい・かゆみ・体温上昇・
お産後の創部痛が強く感じる場合があります。
まれな副作用として頭痛・硬膜外血腫・
原因不明の神経障害などがあります。

麻酔に伴う副作用・合併症

重篤な合併症としては、全脊椎くも膜下麻酔による呼吸停止、局所麻酔中毒等があります。

このような重篤な合併症が万が一発生した場合は母体救命処置を行います。

麻酔の分娩への影響

◇陣痛促進剤使用の増加

◇分娩時間の延長

◇吸引分娩・鉗子分娩の増加(10%)

※帝王切開率への影響はありません。

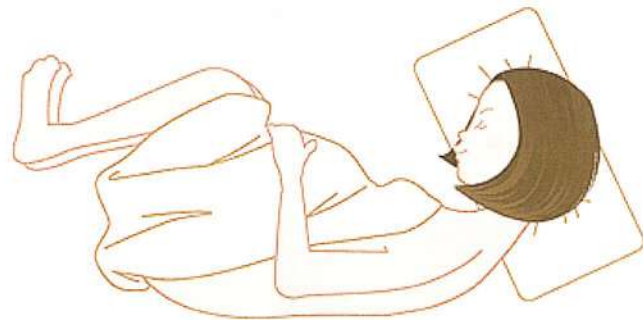
緊急時の対応

ママや赤ちゃんの状態によっては、
緊急帝王切開に切り替える可能性があります。

帝王切開となる場合はご家族の承諾が必要な為
入院後は常時連絡を取れる状態にして下さい。

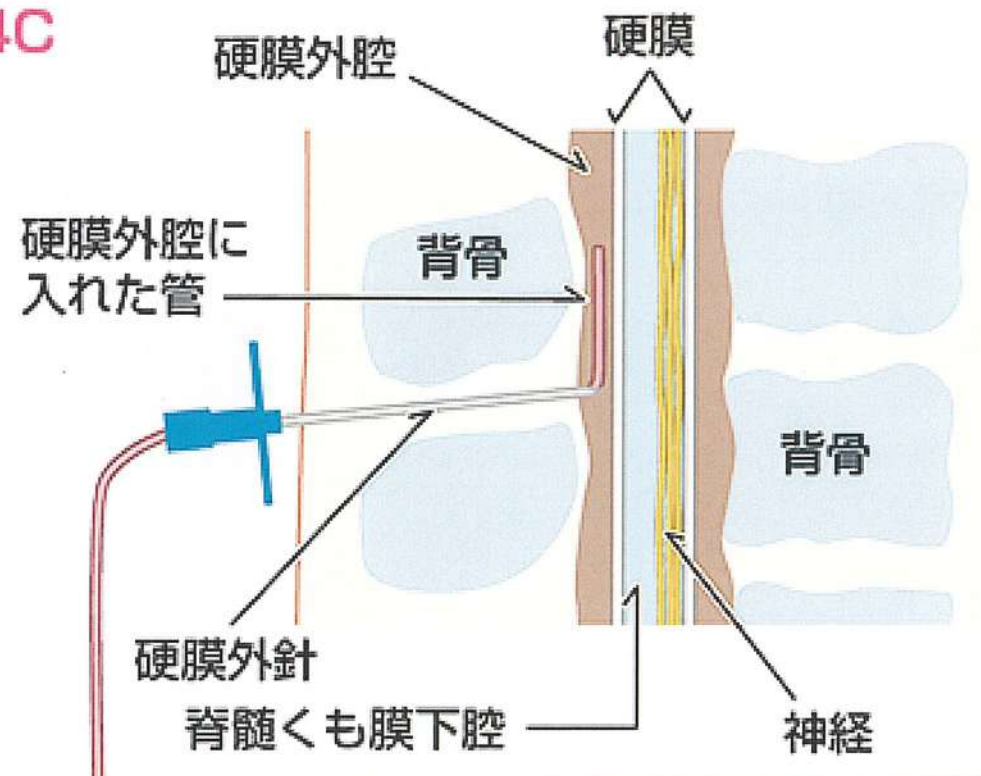
麻酔をかける時の体位

ベッドに横向きに寝て。



背中を丸めます。
自分のあごを胸に、膝をお腹につけるように
して、お腹を引っ込めるイメージです。

図4C



注意点

◇当院の無痛分娩は、計画無痛分娩ではありません。
陣痛・破水入院で処置となります。

※尚、経産婦様に限り計画無痛分娩を行います。

ご希望の方は診察室等でお問合せください。

◇24時間体制ではありません。

夜間・休日で入院された場合は、

処置が行えませんのでご了承ください。